

たまだれ
No.42

玉垂



宮川沿いの紅葉と棧敷（平成26年11月30日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

年の瀬を迎えて

本年十月五日、高円宮典子女王殿下と出雲大社権宮司千家国麿様とのご成婚の慶事に国内は暖かな奉祝の空気に包まれました。また、本県各地におきましても、お二人の雅やかなお姿に感嘆の声が上がりました。千家国麿様におかれましては本年の当社例祭にご参列戴き、出雲大社と当社の関係についてのご挨拶を賜りました。お二人のご結婚は、歴史的にも意義深く、皇室と出雲国造家の太古からの時を経てのご神縁には、日本の国柄の基であります神話の世界が今に継承されていることを実感された方も多いと存じます。

さて、季節の巡りは早いもので、今季も多くの皆様に当社の紅葉をお楽しみ戴きました。朝の気温が十度を下回ると加速度的に色合いを増していく様は一層自然の不思議さを際立たせます。本年の色づきは例年通り非常に美しく、宮川沿いでは自然が描く極上の色彩に目を奪われ立ち止まる方が多く見受けられました。

一方、ここ数年は全国的に大規模自然災害が多発しております。当社におきましても十月に上陸した台風十八号による被害を受け、事待池周辺と宮川沿いを中心に倒木・架橋の倒壊・護岸壁の崩落等の被害がありました。自然が持つ厳しい面と穏やかな面は遙か昔から変わることなく今に至っておりますが、便利な世の中になり、減災技術は進む一方、日本とはどのような国土であるのか、私たちが住む土地はどのような土地であるのか、先人達はどのように自然に寄り添い、生活を営んできたのかという知識の継承が希薄化してきているのではないかと気がかりです。また、古い神社・仏閣に伝わる言い伝えの中にはその土地を象徴する物語がありますし、古い地名には土地を表わす文字が使われています。私たちが祖先から受けついできた多神教的・汎神論的な世界観や自然観を今一度見つめ直し、常に変化していく自然にこれからも絶えず適応できるように、ハード・ソフトの両面においての備えが不可欠であると存じます。

いつも乍ら年末のこの時期は、迎春準備の追い込みとなります。氏子・崇敬者の各位におかれましては、ご自愛專一に良い末年をお迎えてくださいますようお願い申し上げます。

新嘗祭の斎行・奉納農産物品評会の表彰

境内の紅葉が見頃を迎え、大勢の参拝者で賑わう十一月二十三日、新嘗祭を斎行いたしました。

「新嘗」とは新穀を神様に供えることを意味し、稲作を中心として発展してきた日本を象徴する収穫祭として全国の神社で執り行われています。

当社でも氏子の皆様方よりご奉納いただきました農産物をお供えし、大前に今年一年の豊穡をご奉告、感謝申し上げます。

また、舞殿横にて当社振興会の主催により、今回で五十八回目を迎える奉納農産物品評会が開催されました。本年は長雨や台風十八号の上陸等、天候不順の影響が心配された年でありましたが、この様な状況にもかかわらず、氏子の皆様方より出品もいただきました二五〇点もの奉納農産物は、新嘗祭斎行後の即売会にて大盛況のうちに完売となりました。

ここに品評会にて受賞された方々をご報告させていただきますとともに、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

〈協力賞〉

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 円田上部農会
- 第三位 中川上部農会
- 第四位 橘 部農会
- 第五位 上川原部農会

〈小國神社賞〉

- 米 中川上 鈴木 定男
- 大根 片瀬 毛利 正雄
- 白菜 牛飼 村松伊佐雄
- 茶 中川上 本多利吉
- メロン 米倉 今村 芳信



奉納農産物品評会への出品物 (11月23日)



品評会準備作業中の振興会会員 (11月22日)

〈特別賞〉

- 大豆 八出品 宮代東
- 大根 赤根 高柳猪佐男
- キャベツ 赤根 松尾 貞子
- 椎茸 宮代東 鈴木 英夫
- みかん 上川原 鈴木 貞子

(敬称略)

〈特等賞〉

- 米 円田上 鈴木 利枝
- ササメ 円田下 松田 孝一
- ネギ 片瀬 山本 文明
- 生姜 米倉 朝比奈秀昭
- 柚子 谷中 朝比奈秀昭

〈小國神社振興会賞〉

- 米 円田上 鈴木 伸明
- 馬鈴薯 中川上 小林 富幸
- レタス 牛飼 半田 常夫
- 唐辛子 中川上 岩瀬 淳子
- 治郎柿 谷中 西尾 貞雄

〈遠州中央農業協同組合代表理事賞〉

- 米 橘 白幡 伸幸

篤志奉納者へ感謝状の贈呈

十一月二十三日の新嘗祭斎行後、拝殿におきまして篤志奉納者の皆様へ感謝状と記念品の贈呈をいたしました。ご奉納いただきました皆様のご芳名を掲載し、改めて厚く御礼申し上げます。

- 浄財・土地 神間八千代
- 塩井神社参道整備一式 大石 俊次
- 株式会社大山 代表取締役社長 小林 健
- 石製テーブル・イス一式 (有)一十園 小野 良香
- 米粒「江戸いろはかるた」 牧野 良香

(順不同・敬称略)



(有)一十園小林健様奉納の石製のテーブル・イス

塩井神社参道整備のご奉納

平成二十六年七月、末社塩井神社の参道が、袋井市の山大(株)代表取締役社長大石俊次様のご芳志により整備が施されました。

新しい参道には、コンクリートで作られた緩やかな階段と、手すりが設けられました。以前の参道は、長年の風雨により劣化が進行し、ご参拝の皆様には不便をおかけしておりましたが、お陰をもちまして氏子崇敬者の安全な参拝が叶うことになりました。

大石様には、この度の整備工事のご奉納に深く感謝するとともに、小國大神様のご加護を頂かれ益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



整備された塩井神社の参道 (7月30日)

責任役員鈴木三千雄様 敬神功勞章受章

この度、永年に亘る神明奉仕のご功績を賞され責任役員の鈴木三千雄様が神社本庁より「敬神功勞章」の誉れに浴されました。十月三十一日当日は全国の受章者二十一名参列のもと、神社本庁神殿において厳肅に奉告祭が執行され授与式が行われました。

鈴木様は平成四年に当社の総代として就任せられ、平成八年には責任役員に就任、平成十六年には御鎮座一四五〇年記念事業募財委員長に就任、平成十九年には(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会静岡県本部周智支部常任委員に就任、現在では神社総代会周智支部長に就任せられ二十余年もの長き間、斯界にご尽力を賜っております。

鈴木様におかれましては、小國大神様のご加護を頂かれ、ご自愛專一にて益々のご活躍をお祈りいたします。



明治記念館にて (10月31日)
左・鈴木三千雄責任役員
右・神社本庁副総長・熱田神宮宮司
小串和夫様

舞楽保存会「雅楽時空をまた出会」京都公演

九月十四日(日)京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催による公開講座が開催されました。遠州の小京都・森町の舞楽「古代中世雅楽譜の解読」と題し森町教育委員会協力のもと、当社の古式舞楽保存会と天宮神社十二段舞楽保存会が出演いたしました。全三部構成となり第一部・第二部では日本伝統音楽研究センターの田鍬智志准教授の基調講演及び両舞楽の指南役と教育委員会事務局を交えてのディスカッションが行われました。

この公開講座の趣旨は、地方の雅楽に残されている音楽様式の源流を探り、古代中世の雅楽様相を明らかにするとともに、地方の舞楽を再評価するものです。

第三部では、小國・天宮の舞楽演奏に、現在の雅楽を合わせた形式で合奏し楽曲の比較検証をいたしました。

この度の公演におきましても、森町に現存する舞楽が歴史的・文化的価値の高い伝統芸能であるといふ評価を得ることができま

した。常に神々を敬う心を持ちながら、両保存会のさらなる伝承活動が継続されることを願います。



小國神社十二段舞楽 蝶の舞(9月4日)

神徳殿改修工事奉告祭の斎行

九月一日、神徳殿改修竣工奉告祭が執り行われました。

神徳殿は、昭和五十一年に祈禱殿として拝殿東側に新築されました。殿内には本殿と同じご祭神大貴己命をお祀りし、祭典や結婚式を斎行中に、ご祈禱を執り行うための施設です。

この度、祈禱者の増加を受け、より清々しくご祈禱をお受け頂くため、改修工事を実施いたしました。新装の殿内には冷暖房設備を完備し、殿内のスペースを広く確保するための施工を施し、祈禱者専用の長椅子を設置いたしました。これにより、多くの祈禱者の皆様の受け入れが可能となり、より円滑なご祈禱案内が実現いたしました。ご祈禱の内容は拝殿と差はなく、



祈禱者用の長椅子 (9月1日)

小國大神様より授かるご神徳に違いはありません。皆様のご参拝を心よりお待ちしております。



神徳殿竣工奉告祭併せ清祓 (9月1日)



改修後の神徳殿 殿内 (9月1日)

特別寄稿

日本の神話に親しむ会 山住のり子

大型絵巻「古事記」の上演を通じて

私達は、昨年より大型紙芝居「古事記絵巻」の読み聞かせを通じて日本のよき国柄、文化、伝統をお伝えすると同時に、古代日本人の心の豊かさ、大らかさを感じて頂けたら：と思い、活動を始めた地域の母親達です。

この絵巻は、静岡市在住の造形作家「たたらなおき」氏が作られたものです。作品の特長は、わかりやすい内容で描かれていることと、巻き手が読み手の調子に合わせて絵巻を巻きとっていく点です。

絵が途切れずに進むので、物語が自然に心に入り、皆様とても楽しく聞いて下さいます。

また数点の造形物があり、手で触れる事により、子供達は目を輝かせて



大型絵巻「大国主の物語」に聞き入る子供たち(10月22日)

て、イザナキ様、イザナミ様、アマテラス様、スサノウ様、オオクニヌシ様など、神々の名を親しみを込めて口にして、物語全体を覚えてくれます。

これらのお話が事実であったかどうかは、私達にはわかりませんが、一巻一巻に描かれる古事記の物語には「真実」が存在しているように思われます。それは、私達が子供達の感想文に触れた時、素直な言葉に涙が自然と溢れるからです。

「遠いところからわざわざお越し下さいますありがとうございます。」「ぜひ他校や下級生にも見せてあげて下さい」「お話を聞いて、日本に神話があることを初めて知りました。すごくうれしかったです」「私も人のため、世の中のお役に立つようがんばります」「古事記や歴史をもっと勉強します」など。感想は、低学年も高学年も変わらないのです。先生方も驚きと喜びを感じられたそうです。「日本が好きになりました」などの感想にも、私達のほうが感謝したいぐらいです。

一三〇〇年の時を経て、語り継ぐお話の中に見え隠れする「報恩感謝」「共存共栄」の豊かな和の心を私達こそ学び、楽しくこの活動が続けていきたいと思います。

遠州とこわか塾 第五期の開催

「遠州とこわか塾」第五期(平成二十六年九月一日〜平成二十七年八月三十一日)が九月一日より開塾し、十月十九日(日)に第一回目を開催いたしました。

自衛隊静岡地方協力本部本部長佐藤一郎先生を講師としてお招きし、「我が国を取り巻く安全保障環境と我が国の安全保障・防衛政策」と題してご講演いただきました。

近年、危機迫る他国からの領土侵犯や多発する自然災害への自衛隊の対応と活動を詳しく説明・報告していただきました。こうした自衛隊の有事に対する日頃の努力や諸活動から、我が国そして国民の安全と平和を護る確固たる使命感をうかがいしることができました。

また、国民ひとりひとりも自国を守る意識を持ち、有事の際は協力を惜しまないことが必要となるでしょう。



講師 佐藤一郎氏 (10月19日)

鳥居禮画伯による舞楽絵 「新まっく」完成



古式舞楽「新まっく」



太田辰美氏撮影 野鳥写真「イカル」



敬神婦人会研修会 天皇陛下傘寿奉祝記念DVDの鑑賞

第十二回 「写真コンテスト」 のご報告

十二回目を迎えた小國神社の写真コンテストには、八十六名の皆様から三八七枚のご応募がありました。

去る八月十八日に実行委員会による最終審査会が実施され、最優秀賞をはじめ各賞が決定いたしました。表彰式は九月七日に小國神社拝殿において開催され、作品展は同日より九月二十三日までの期間、当社研修室にて入賞作品を含めた五十枚を展示いたしました。
なお、開催にあたりご協力いただきました各後援・協賛の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。



伊藤正義「茅の輪ぐり」



村上雅己「いい子、いい子」



名波 豊「森に響く声」



榎本 賢「浅敷にも秋の色」



河村四朗「秋の遠足で」

入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	特別賞	優秀賞	優秀賞	最優秀賞				
入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選				
木根	袴田	鈴木	堀住	太田	野末	鈴木	鶴飼	木下	宮村	相澤	光飛	鈴木	榎本	名波	村上	河村	伊藤
秀明	正之	俊勝	雅男	辰夫	昌美	昌裕	康裕	安雄	博明	悦清	悦子	信志	雅賢	豊	雅己	朗一	正義
(袋井市)	(袋井市)	(浜松市)	(菊川市)	(吉田町)	(浜松市)	(浜松市)	(浜松市)	(浜松市)	(磐田市)	(島田市)	(森町)	(磐田市)	(掛川市)	(掛川市)	(静岡市)	(浜松市)	(浜松市)
(敬称略)																	

命 名

平成二十六年五月一日
平成二十六年十一月三十日

佐藤	上寺	杉本	牧野	木下	鈴木	鈴木	武藤	榛葉	高津	杉田	後藤	久保	菅沼	小口	兵藤	内山	村松	大力	中山	田形	高橋	平尾											
千歳	貫太	智彦	莞大	睦斗	葵衣	美咲	小夏	伊吹	百々葉	祥太郎	暖貴	皆太	瑞桔	舞奈	舞我	寛介	寛介	日陽	遥陽	綜祐	和久	莉緒											
森町	磐田市	磐田市	袋井市	森町	袋井市	浜松市	袋井市	菊川市	掛川市	菊川市	袋井市	森町	袋井市	袋井市	磐田市	名古屋市	袋井市	浜松市	袋井市	牧之原市	吉田町	掛川市											
吉筋	鈴木	大庭	新貝	熊切	吉良	藤田	松井	立石	中津	新貝	北原	北原	杉枝	佐藤	鈴木	山下	岸	尾崎	西尾	朝比奈	小笠原	山下	松尾	藤見	渡部	河住	鈴木	竹下	鈴木	向島	杉山	市川	
結梨	天麻	璃太朗	藍斗	里帆	拓土	陽斗	希依奈	佳澄	川遥大	碧麻	旬	優那	新	貫太	雅仁	音葉	蓮太郎	颯真	颯真	李実	李実	佑希	佑和	有和	樹希	元貴	凜人	ひより	紗貴	皓惺	成那	直輝	愛莉
森町	森町	掛川市	袋井市	掛川市	掛川市	磐田市	浜松市	磐田市	浜松市	掛川市	菊川市	菊川市	掛川市	森町	袋井市	牧之原市	袋井市	藤枝市	袋井市	袋井市	森町	掛川市	袋井市	相模原市	磐田市	掛川市	森町	掛川市	袋井市	森町	掛川市	掛川市	磐田市
馬淵	萩本	大庭	中根	佐藤	横田	宮城	村松	小野	戸塚	栗田	須山	富永	杉本	山下	山下	吉山	池田	垂見	竹島	鈴木	中山	青島	光部	松浦	岡本	足立	遠藤	内	三室	大沼			
美望	建吾	璃太郎	涼	風杜	理人	洋那	葉那	陽平	美侑奈	蒼士	颯大	滯璃	紗那	藍花	惺也	夏緒	悠人	涼花	羽惟	魁人	颯姫	萌	大河	愛里美	柚希	金汰	摩音	智紀	絵実依	瑚波			
浜松市	袋井市	掛川市	掛川市	掛川市	掛川市	掛川市	森町	菊川市	掛川市	掛川市	掛川市	浜松市	袋井市	袋井市	袋井市	袋井市	袋井市	袋井市	掛川市	掛川市	掛川市	掛川市	磐田市	袋井市	袋井市	森町	浜松市	山口市	濱松市	森町			

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

まつり歳時記

十二月〜三月

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十四日 鎮火祭 (午後三時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 十九日 甲子祭 (午前九時)
- 二十三日 天長祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 昭和天皇祭遙拝式 (午前八時)
- 七日 神明宮参拝 (午前九時)
- 十一日 手鉞始祭 (午前八時)
- 十三日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前八時半)
- 十七日 御弓始祭 (午前九時半)
- 十八日 月次祭 (午前八時半)
- 十八日 どんど焼祭 (午前九時)
- 二十日 二月三日 厄除大祭

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元祭 (午前十時半)
- 十五日 養徳社暨王子社白山社例祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十七日 初甲子祭 (午前九時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
 - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
 - 十八日 月次祭 (午前九時)
 - 十八日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
 - 十八日 鉞執社例祭 (午後一時半)
 - 二十一日 春季皇霊祭遙拝式 (午前八時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月 十七日 前日祭 (午前十時)
 - 十八日 例祭 (午前十時)
 - 十八日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 十九日 舞楽奉奏 (午前十一時)
 - 十九日 神幸祭 (午後二時)

師走の大祓

十二月三十一日午後三時より師走(年越)の大祓式を執り行います。大祓式とは心や身体についた罪や穢れを身代りとなる人形に託し、川に流して祓い清める日本古来の神事です。

私たちは、知らず知らずのうちに様々な罪・穢れに触れています。「けがれ」とは、「気が枯れている状態」を表わすともいわれています。

祓い清めの慣わしで、心も身体も清らかで明るい状態に立ち返り、活力ある生活を営むことができます。私たちは日本人は、このような神事を通して暮らした節目をつけながら、心身共に豊かに暮らしてきました。

当日は、多くの方々にご参列いただき清々しく新年を迎えていただきますようご案内申し上げます。

祭儀課 大祓係



師走の大祓 (平成25年12月31日)

古代の森シリーズ 42

鳥居

鳥居の形は地図記号として神社を示すために用いられ、神社の代名詞ともいえます。鳥居には様々な形があり当社の鳥居は「明神鳥居」と呼ばれるものです。貫と呼ばれる横木につらぬかれた二本の柱が上の鳥木を支え、その鳥木に屋根をかけるように笠木が乗っています。並行になった鳥木と貫の中心に額束が縦に一本入っているのが特徴です。

鳥居の起源については様々な説があり、天照大御神が天の岩戸にお隠れになった際に八百万の神々が鶏を鳴かせ、その鶏が止まった木に因むともいわれています。

鳥居はご神域の内と外を区切る扉のない門の意味合いがあります。形は様々でありますが鳥居を見ると神聖さを感じるのはいわゆる日本人の共通した考え方です。



秋空に映え渡る鳥居 (平成26年9月22日)

新春祈禱のご案内

平成二十七年の新春祈禱を例年通りご奉仕いたします。

当日の受付は大変混雑が予想されますので、年内の予約受付をご利用ください。

尚、個人の祈禱は当日受付にて毎日ご奉仕いたしております。

ご家族お揃いでご参拝くださいますようお願い申し上げます。

一、予約対象 会社及び個人事業者
一、申込方法 電話またはFAX等にて申し受けます。



恒例のどんど焼き（平成27年は1月18日に斎行）



田遊び神事（1月3日に斎行）



諸業繁盛の大國だるま(元旦より)

一、ご相談、ご不明の点がありましたら、左記までお問い合わせください。

小國神社 新春祈禱予約係
TEL 〇五三八一八九一七三〇二
FAX 〇五三八一八九一七三六七

厄除大祭のご案内

二月二十日～二月三日

人生の節目に当たる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で転機を迎えるとともに、難にあいやすい年頃といわれ、現代においても厄年は人々の生活、人生に強く結びついています。人の一生は山あり、谷あり、様々な厄災が待ち構え無事を願う気持ちは今も昔も変わりません。

当社では一月二十日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。厄年のお祓いを始め、八方塞がり、黒星、諸々のご祈禱をお受けになります。清々しい日々の生活をお過ごしください。

尚、二月三日は混雑いたしますのでお早めにお越しくださいますようお願い申し上げます。

特別授与品「破魔弓矢」のご案内

当社で授与いたします「破魔弓矢」は、ご祭神大己貴命が八十神（悪しき神）を宝器である生弓矢を用いて坂の果てに追い伏せ、河の瀬に追い払い、初めてこの国を治めた慶事に基づいて厄難消除・開運厄除の願いを込め奉製いたしております。

厄除大祭期間中の特別授与となりますので、是非ともこの期間にお受け下さいますようお願いいたします。

「破魔弓矢」はご自宅の神棚や床の間、玄関などに粗末にならないようにお祀りください。



破魔弓矢

一平成27年 厄年表一

男	前厄	本厄	後厄
	昭和31年 60才	昭和30年 61才	昭和29年 62才
性	昭和50年 41才	昭和49年 42才	昭和48年 43才
	平成4年 24才	平成3年 25才	平成2年 26才
女	前厄	本厄	後厄
	昭和55年 36才	昭和54年 37才	昭和53年 38才
性	昭和59年 32才	昭和58年 33才	昭和57年 34才
	平成10年 18才	平成9年 19才	平成8年 20才



テレビ静岡情報番組「くさデカ」専用車両「くさデカー」の交通安全祈願



新装となった大宝殿舞台（10月30日）

「小國の杜」点描



常葉大学造形学部 特別授業風景（6月23日）



巫女祭祀舞講習会 講師 稲葉悦子先生（7月23日）

斎庭の草花②

— シロヨメナ —

当社は四季折々に自然を楽しんでいただける豊かな杜に生まれ、また普段何気なく見ている境内には多くの草花が生きています。

御神域に生きづく草花の写真の数々は崇敬者でおられる袋井市在住の山崎克巳氏の奉納写真をもとに掲載いたします。

シロヨメナ（白嫁菜）

花期 八月～十一月 草丈 三〇cm
シオン属

ケク科

生育地 山野

分布 本州・四国・九州

シロヨメナはいわゆる「野菊」の仲間です。主として林縁などの半日陰になるような場所に自生する多年草です。

初秋から晩秋にかけて、茎頂で花柄を分けて径一、二cm前後のやや小さい白色のキク型の花を皿型（散房状）にやや多くつけます。

また、万葉集にも「ヨメナ」は詠まれており、平安時代には初秋の花を愛でるのではなく春の訪れを告げる若菜摘みの対象であったことがうかがえます。



白嫁菜

新職員紹介



録事

市瀬あゆみ

ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。

編集後記

○「玉垂」四十二号をお届けいたします。秋の行事を主にご報告させて頂きました。本年十一月の土曜日・日曜日は天候不順が続いていましたが「もみじまつり」の当日は秋晴れに恵まれ多くのご参拝の方々が訪れました。古来より日本人は草木花を愛で詩歌を詠むなど豊かな感性に溢れ、同時に自然の営みの中に神々を見いだし、感謝と畏敬の念を持ち生きてきました。「もみじまつり」が自然の息吹や尊さを感じて頂く一助となれば幸甚に存じます。

○この度、特別寄稿を頂いた「日本の神話に親しむ会」では幅広い年齢の方々を対象に読み聞かせの活動を展開しております。皆様も是非、神話の世界に触れてみてはいかがでしょうか。

「日本の神話に親しむ会」事務局 山住のり子様
電話・FAX 〇五三八（四二二）〇一七四

表紙写真について

平成二十六年十一月三十日（日）の「もみじまつり」開催中に撮影いたしました。賑わう宮川棧敷からは美味しい食事を楽しみながら、紅葉の美しさを堪能している参拝者の声が聞こえてまいりました。

平成二十六年十一月二十日
「玉垂」（たまだれ） 第四十二号
題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七七-〇二二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
電話番号 〇五三八（八九）七三〇二
FAX 〇五三八（八九）七三六七
印刷 ㈲デザインオイス エムエスシー